

## 平成三十一年 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

新年を迎え今年的一年に新たな希望と期待をもって年頭に臨んでいることと思います。更にもっと具体的な目標まで決めた人もいることと思います。

茨城県山岳連盟としましては今年の「茨城国体」の大会運営の成功とその大会で県内選手たちの大活躍が最大の目標です。

それにしても昨年の茨城県山岳連盟で最も大きな出来事は“国体の総合優勝”でした。他の競技団体が低迷し県全体の成績が都道府県対抗で16位と目標を大きく下回る中、山岳は競技得点で96点を取り、県全体の競技総得点692点の1割5分近い得点を獲得しました。総合優勝の常連である埼玉県を僅か3点の僅差で破っての優勝トロフィーの獲得でした。選手・監督、そして長年強化に努めた関係者の努力の賜物です。福井国体が終わり冷静になったところで振り返りますと、選手として本県から出場した野口啓代さん・小林由佳さん・沼尻拓磨君・野村真一郎君・森秋彩さん・菊池野音さん達と全国の出場選手の力の差は非常に接近してきていて、逆転することもされることも常にあるという状況になっています。言い換えれば、関東ブロック大会を通過出来なかった少年男子の今泉結太君・石田諒君の組でも、もし国体に出場していたら上位入賞していた可能性があるということです。選手の皆さんは今年こそ一層気を引き締めて“チーム茨城”で今年の国体に臨みよい成績を残しましょう。

今年10月の国体にご協力いただける会員の皆様には、昨年よりブロック別研修会への出席を強制したり、時間的・経済的負担をおかけしていますが、今年は更に4月の県予選会、6月のリハーサル大会、そして国体本番と出番が多くなります。ボランティア活動を強いるように誠に恐縮ですが大会成功のためよろしくお願いいたします。

話は戻りますが昨年の茨城県山岳連盟は、今年の地元開催の国体のための準備と選手強化などが恒例の行事・事業に加わったために、いつもになく忙しい一年になりました。2月に行われた冬山講習会こそ参加者が少なかったものの、5月の岩登り講習会、レスキュー講習会などの事業もそこそこの参加者を集め実施できました。中でも3年前から始めた「山の日」制定記念登山は神峰山、高鈴山を中心に実施したところ参加者が100名と大盛況でした。厳しい山行をする人は減っていてもハイキング人口は全く減っていないことが証明されたこととなります。一方で、昨年希望者がなく中止した少年少女登山教室は今年も開けず、もし開講するならば子供達が跳び付く内容に変更して募集することが求められているのではないかと思います。また指導委員会が主体で対応しているスマイル東海への助成事業も参加者から大変喜ばれました。そして笠松スポーツフェスティバルなどのスポーツクライミングの講習会は常に多くの応募者があり、100名を超す講習会の時もあり、人気の高さが伺われます。



スポーツライミングの競技では、水戸工業高校の生徒達の活躍が顕著に見えてきましたし、将来が期待される小学生が出てきたことなどは今年の収穫でした。佐藤悠織君や村越佳歩さんなどが坂場杯や関東地区小中学生大会などで活躍し、今後の茨城の競技を考えた時の大きな朗報になりました。

また、茨城岳連が後援した行事に関東高校登山大会が昨年ありました。奥久慈の山々を会場に都県代表各8チーム、約400名近くの選手などが紅葉始まったばかりのコースを楽しみました。大変好評で筑波山ばかりでなく、茨城にこんな魅力ある山々があることを示してくれました。

残念なニュースもありました。夏山山行で白神山中での滑落事故です。県岳連傘下団体の夏山合宿の下山中、木の根につまづいてバランスを崩し滑落し大木の幹に頭を打ち付けたことによる死亡事故でした。状況を聞く限り、普段、私たちの登山やハイキングでも十分考えられる事故です。他山の石として各会、各人十分にご留意ください。

今年、茨城岳連は迫ってきた茨城国体の準備一色の年になりますが、皆様方の一層のご協力をお願い致しますと共に、加盟各会の安全と活躍を期待し、競技に携わる皆様のご健闘を祈り新年始めのあいさつと致します。

成三十一年 元日  
茨城県山岳連盟  
会長 二階堂章信